

Impact of Popliteal Sciatic Nerve Block on Endovascular Therapy

P-12

Riho Suzuki, Yutaka Dannoura, Takao Makino, Hisashi Yokoshiki

Sapporo City General Hospital

背景:超音波ガイド下膝窩坐骨神経ブロック(PSNB)は、慢性重症虚血性病変(CLTI)に対する血管内治療(EVT)中の疼痛緩和に有効であると報告されている。しかし、EVTの手技への影響は明らかではない。本研究では、膝下(BTK)病変を有するCLTI患者において、PSNBがEVTの成績に与える影響を検討した。

方法:本研究は単施設後ろ向き観察研究であり、2024年7月から2025年6月までにBTK病変に対してEVTを施行した連続180例のCLTI患者を対象とした。PSNBを施行された73例(PSNB群)と、PSNBなしで治療された107例(非PSNB群)を比較した。結果:手技成功率には両群間に有意差はなかった(97.4% vs. 96.3%, p > 0.99)。入室から退室までのカテーテル室滞在時間は有意差がなかった(68.5 ± 30.6 分 vs. 75.4 ± 36.5 分, p = 0.19)が、穿刺からシース抜去までの手技時間はPSNB群で有意に短かった(52.9 ± 29.6 分 vs. 66.4 ± 36.0 分, p = 0.009)。PSNBに要した時間は平均 6.5 ± 2.4 分であった。DSA画像の失敗率は、PSNB群で有意に低かった(16.4% vs. 55.1%, p < 0.001)。造影剤使用量には有意差がなかった(58.4 ± 42.1 ml vs. 67.1 ± 38.4 ml, p = 0.15)が、放射線被ばく量はPSNB群で有意に低かった(8.9 ± 6.6 Gy cm² vs. 11.9 ± 10.1 Gy cm², p = 0.024)。PSNBに関連する合併症は認められなかった。結論:PSNBは、CLTIに対するBTK病変へのEVTにおいて、安全かつ有用な補助手技であり、手技時間の短縮、脚の動きによる画像不良の改善、放射線被ばくの低減に寄与する可能性がある。